

~今月の花木~



キンモクセイ 金木犀

モクセイ科・常緑小高木・中国原産

9月~10月にかけて咲く、秋に咲く花木の代表的なものである。公園や庭などによく植えられており、香りで存在に気が付くことも多い。

休日に訪れてみた 気になる場所



休みの日には家でゴロゴロするのも好きですが、時折遠くに出かけたくなります。ただ、人ごみや混雑する有名観光地は、わざわざ休みの日に疲れに行くようで躊躇してしまいます。

今年の上半期に、以前から何となく気になっていた場所に行く事が出来ましたので、その模様を紹介いたします。個人的な興味で訪れた場所であり、記事はあくまで「個人の感想です」レベル程度の話です。後付けですが、一応テーマとしては、「災害」「土木」「自然」といった感じでしょうか。

今回紹介する場所は主に3箇所あります。

1つ目は福島県内の「帰還困難区域」です。東日本大震災による福島第一原発事故による放射能汚染のため、事故から約8年半が経過した今も人の居住や立入が制限されている区域です。除染などによってある程度放射線量は下がってきており、復旧・復興に向けた工事などは進んでいます。が、他の被災地に比べ、いまだに手付かずの場所が多くあります。一般人でも車で通過するだけなら通行可能なルートがあり、今回JR常磐線の列車代行バスに乗って通過しました。

2つ目は群馬県長野原町にある「八ッ場(やんば)ダム」です。民主党政権時に工事の中断で知名度が増したダムも今年度(平成31年度)中には完成予定です。湛水(たんすい)前の最後の景色は今しか見られません。

3つ目は群馬県中之条町にある「チャップリンゴケ公園」です。変わった名前の公園なので一度行ってみたいと思っていました。2つ目と3つ目は同じ県内で地理的に近く、レンタカーを借りて草津温泉に一泊して今年6月に両方訪れました。

1つ目と2つ目は共通点として、工事等の進捗次第で今しか見られない風景がある、原発とダムという推進と反対に晒された現場であります。もし興味のある場所がありましたら、訪れてみてはいかがでしょうか。

Scene1 帰還困難区域

災害、戦争、公害、差別など人類の負の歴史の痕跡をめぐる旅を「ダークツーリズム」と近年よんでいるようですが、少しだけそのような意味合いもありつつ、別の目的で東京から仙台方面に行く用事があり、鉄道が復旧する前に一度は行って見とおきたかったので、通過してみました。

帰還困難区域は原則として一般人の通行や立ち入りは出来ませんが、通過利用に関しては特例があります。常磐自動車道は自動車と共に自動二輪(バイク)の通行が認められています。国道6号線などの一般道の一部は自動車のみ通行可能です。

が、自動二輪や軽車両(自転車)、歩行者の通行は出来ません。

今年4月、JR常磐線富岡駅から帰還困難区域をJR列車代行バスに乗車して国道6号線を北上しました。鉄道は富岡駅~浪江駅間が現在不通ですが、その区間は有効なJRの乗車券類があれば代行バスを利用することができます。

送があり、ここが普通の場所ではない事を実感しました。帰還困難区域内の国道の信号は全て黄色の点滅、道の両側はバリケードで封鎖されており、8年半前から手付かずの廃墟のような建物なども目に留まりますが、工事関係者の人や車両も多く見かけます。

バスは観光バスタイプのため、高い位置からの眺めや内装などから一瞬観光にでも来たかのような錯覚を覚えましたが、発車時の注意放送以外には特に案内もなくバスは淡々と走り、約20キロを30分で浪江駅に到着しました。

来年3月にはJR常磐線が復旧する見込みで明るい兆しもあります。原発事故からの復旧・復興の進展を願いつつ、いまだに風評被害のある福島県産の農水産物を購入する、旅行などで福島県を訪れるなど、少しでも出来ることは応援したい気持ちになりました。



帰還困難区域 (原則立入通行不可エリア)
 自動車のみ通行可能 (二輪車不可) ※常磐道は二輪車通行可



富岡駅、代行バス乗り場と代行バス



かつば寿司の看板も古いまま



震災で壊れたままの店舗



側道など全てにバリケードがある



黒い袋は除染した草などだろうか



常磐線復旧工事は進んでいる

Scene2 ハッ場ダム



ハッ場大橋に掲示のある、湛水 (=水没) 区域などが分かる看板



展望広場では観光ガイドが説明していた



展望スペースから、ダム本体の上流側、水没する側の眺望

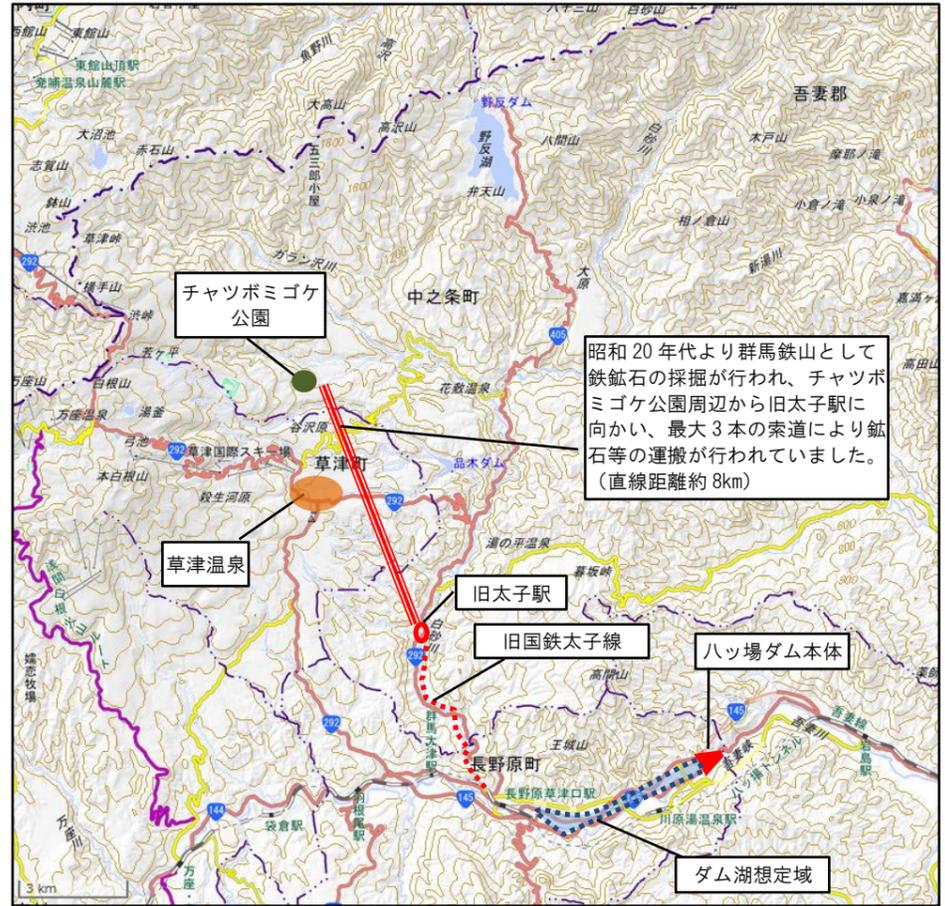


ハッ場大橋から下流側の眺望 (水没する)



ハッ場大橋から上流側の眺望 (水没する)

群馬県長野原町に建設中のハッ場ダムは、計画から 67 年の時を経て来年 3 月に完成する予定です。ダムに水をためる前の最後の景色を見るには、今しかありません。湖底に沈む家々などは解体・撤去されていますが、旧 JR 吾妻線の鉄橋跡などは、そのまま沈めてしまうようです。水没箇所の吾妻線線路は新線に切り替わっています。湖底に沈む場所には川原湯温泉街などの集落がありました。ダム建設の賛否のほか、地元ではダム推進派と反対派の対立が続き、民主党政権の工事中断などでも翻弄されてきました。代替地に移り住むにしろ、この地を離れるにしろ、多くの住民にとって苦渋の決断を迫られたと思います。将来のダム湖湖畔となる場所では、移転した川原湯温泉や道の駅などが整備され、将来のダム湖を跨ぐようハッ場大橋、不動大橋、丸岩大橋が架かっています。吾妻川の谷を塞ぐように高さ 116m のコンクリートの巨大な壁を作り水を堰き止めダムになる、すごい工事ですけど仕組みとしては単純な感じを受けました。水没する高さとは認識できても、本当に水没する実感は、わかりませんでした。



昭和 20 年代より群馬鉄山として鉄鉱石の採掘が行われ、チャツボミゴケ公園周辺から旧太子駅に向かい、最大 3 本の索道により鉄石等の運搬が行われていました。(直線距離約 8km)

Scene3 チャツボミゴケ公園



草津温泉から車で途中狭い山道などを進むこと約 30 分、公園の駐車場・受付に到着しました。入場料大人 600 円を支払い、コケの群生地近くまでは、園内のマイクロバスに乗れます。徒歩でもいけますが、駐車場から坂道 1.3km 程度あります。園内バスを降りたらコケの群生まで 300 m 程山道を登ります。



穴地獄全景

チャツボミゴケ … 強酸性の鉱泉が流れるところに育つ、珍しいコケ
かつてこの地には鉄鉱石の鉱床があり、昭和 41(1966)年まで露天掘りによる採鉱が行われ、その跡地の窪みである通称「穴地獄」に自生しているのがこのコケです。穴地獄から湧出する酸性泉がこのコケに適した生育環境を与え、日本最大級の群生地を形成し、国の天然記念物に指定されています。季節によって周りの景観やコケの状態が変化します。コケ以外にも散策して自然環境が気持ちのよい公園です。秋の紅葉時期は賑わうようです。なお、公園は 12 月～3 月は冬期閉鎖となりますので、ご注意ください。



深く澄んだ緑色のコケ



穴地獄では酸性泉が湧出



景観や環境は良い



モリアオガエルの卵 (オマケ)



駐車場・受付など



公園内を走る園内バス



バス→コケの群生地までの道

おとし 旧太子駅

チャツボミゴケ公園付近の群馬鉄山で採掘した鉄鉱石をここまで索道で運んでいました。昭和 46(1971)年廃線。現在は駅舎などが復元され、見学出来ます。